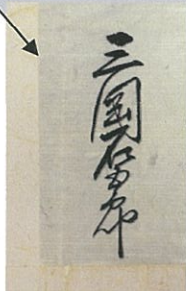
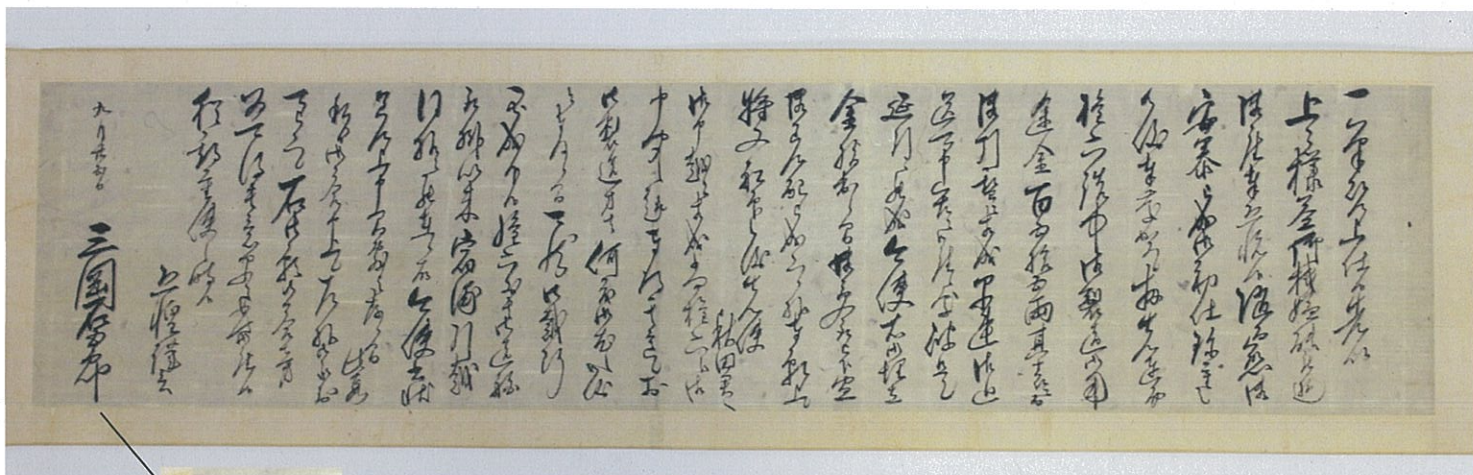


# 歴史資料の入手について

## 1-① 三岡石五郎書状（九月二十五日付）



一筆啓上仕候、先以上々様益御機嫌能被遊御座、奉恐悦候、随而愈御安泰被成御勤仕、珍重之御儀、奉慶賀候、扱先達而権六詰中御製造御用途金百五拾五両其表二而御引替二相成、早速御廻送可申筈二御座候処、彼是延引二罷成、今使右御埋立金指出候間、御受取被下、宜御差配被成下候様奉願上候、将又船印之儀、先使秋田君へ御申越二相成、尚権六江御申聞之趣、奉得其意候、於御製造方者何茂御尤之御儀と奉存候間、可然御裁断可被成下候、権六義者御造船取掛以来、宿浦引越同様二罷在候故、今使書状差上申間敷と存候間、此段私方御答申上候、左様御承知可被下候、右御願御答旁為可得貴意、早々如此御座候、猶期重便之時候

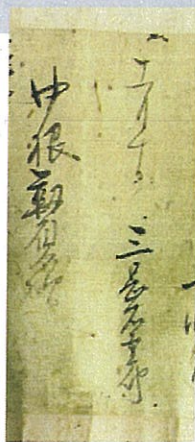
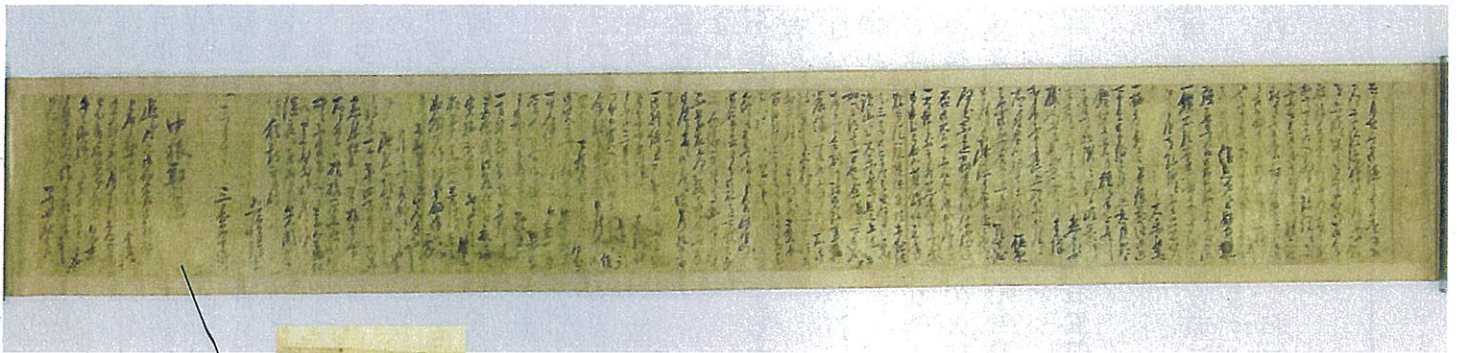
恐惶謹言

九月廿五日 三岡石五郎

〔現代語訳〕

一筆啓上いたします。先達て権六（福井藩士佐々木権六）の詰め中にお引替えいただいた御製造御用途金の一五五両を、遅くなりましたが、御埋め立て金を送りますので、お受取くださり、ご差配くださいますようお願いいたします。また船印のことは、先使の秋田君（福井藩士秋田八郎兵衛）へお知らせくださりありがとうございます。また、権六へのご指示のことも承知しました。藩の御製造方については、しかるべくご裁断なさってください。権六は御造船の取り掛かり以来、宿浦（坂井郡）へ引越しているのです、私の方から、このこと権六に伝えますので、ご承知ください。

1-② 三岡石五郎書状（十一月十日付）



去月廿一日御認之貴墨奉拜見候、寒冷弥増ニ御座候処、先以奉恐悦候、隨而奉慶賀候、扱今般珍客來着ニ付、何角御用繁ニ可被為入、就而ハ珍説も又不少可有御座奉推察候、權六始私共不相變細事繁多ニ罷在候故、当方之沙汰すら一切耳ニ入不申、折節其表之御うわさ仕候義ニ御座候、併息才ニ而努鞭強罷在候間、御費情被下間敷候一鑊石類早速齋宮へ御渡被成下候由、奉敬謝候、不遠石質

「(破損)」リ可申与大樂罷在候一極製録鑿并録鑿油御廻可申旨、御申越御座候処、九月頃方鑊質相變り、種々手を尽し罷在候処、漸々頃日明鑿ニ相交り候義与合点仕候、然処職人義も是ヲ煮分ケ候手際出来不申、甚込入候義ニ御座候、右ニ付専心配者仕候得共、極製之品御受合申上候義ハ難相成御座候間、此段御含置可被成下候、知可被下候

一御別紙ニ而フリッキ板之義御申越被下、早速權六へも相談仕候処、三■ニ而■船

二而御買入ニ仕度義と申居候、併余程下直之品ニ御座候間、御買入も可然哉ニ奉存候間、何分御賢慮ニ御任申上候、宜奉願上候

一先便御願申上候ケ条、早速蘭人へ御問合被成下候由、御繁勤之御中御手数之御義、難有奉存候一万次郎箱館江罷越候ニ付、宮塚氏同道仕候由、航海之実験頼母敷義と奉存候、此表松岡火薬所之御普請も近々成就可仕候得共、当年者雪

■ニ相成可申ニ付、先手を下し

■來春方取掛り申度義ニ奉存候、此度ハ都合能出來候得者、一ヶ年四万斤之火薬ハ急度仕出し可申様相成申候、右ニ付而ハ硝硫灰三味之仕出し中々不容易義ニ而、甚心痛仕居候、申上度義も御座候得共、取込仕候、尚期重鴻之時候、

恐惶謹言

十一月十日 三岡石五郎

中根鞞負様

追而時下御加養御勤務被成候様專一奉祈念候、舍弟事御申越被成下、辱奉存候、尚御異見被下置候様宜奉願上候、乍末牛之助様へも宜御雀声被成下候様奉願上候、灯下乱筆平ニ御仁免可成下候、早々如此御座候、以上

権六（福井藩士佐々木権六）を始め私共は多忙で、福井の噂すら耳に入りません。私共は、勉強に努めておりますので、ご心配なさらないでください。

一 鉱石類を齋宮（蘭学者市川齋宮）へお渡しなされたとのこと、敬謝いたします。極製緑礬（硫酸塩鉱物の一種）と録礬油（硫酸）を二廻送せよとのご指示でしたが、職人もこれを煮分ける手段ができず、困っています。そのため、極製の品をお受け合いできません。

一 太鼓のことなど、ご承知くださり、喜んでおります。来年は散兵法・銃槍使用法・打鼓法とのことで楽しみにしております。このうえに騎兵を加えれば、十分な備えになるでしょう。そうなれば兵制もご改革が完全になるだろうと存じます。このご改革のこと、私共へもお命じになるならば、それ以前に責めて百日計りは江戸へ行き、しっかりと取り調べをしなければ役にも立ちませんので、このことお含み置きください。

一 ブリキ板の入手については、佐々木権六に相談しましたところ、三■にて■船にて購入したいと申ししていました。ブリキ板は下値の品ですので、購入してよいと思います。

一 前回のお便りでお願いました件、蘭人へお問い合わせくださったとのこと、有り難く存じます。

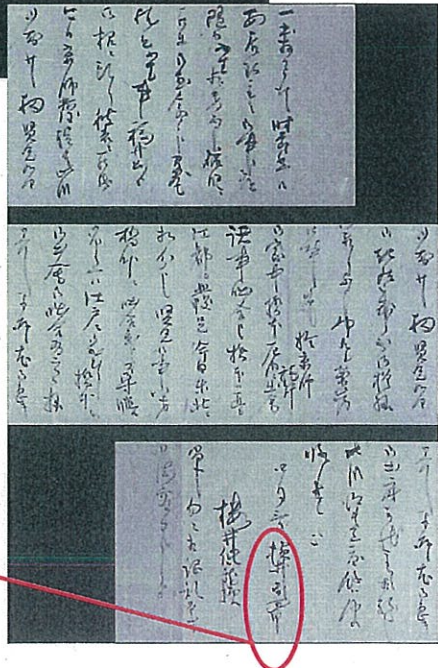
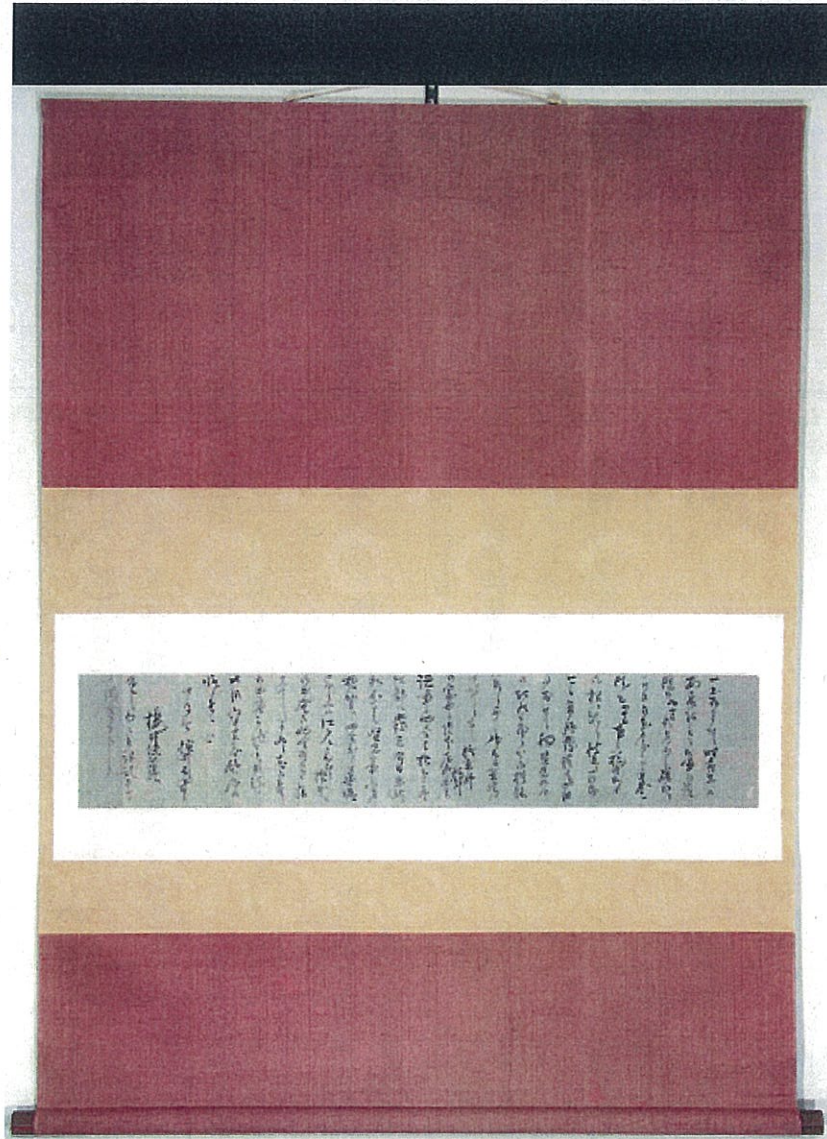
一 万次郎（ジョン万次郎）が箱館へ行くのに宮塚氏が同行したことは、航海の実験として頼もしいことと存じます。松岡火薬所の普請も近々完成しますが、今年は雪■■になりそうなので、来春より取り掛かりたいと存じます。今後、一年に四万斤の火薬は必ず生産できます。しかし、硝硫灰の三つの生産は容易でなく、心を痛めております。

十一月十日 三岡石五郎

中根鞞負様

追伸、舎弟（三岡石五郎の弟友蔵）のことをお知らせくださり、かたじけなく存じます。尚ご指導くださいますようお願いいたします。末筆ながら牛之助様（中根雪江の子）へもよろしくお伝えください。

2 横井小楠書状（安政5年（1858）4月3日付）



〔現代語訳〕

一書拝呈仕候、時節愈御安居、珍重之御事ニ奉存候、随而小生相替不申、依旧ニ罷在、御懸念被下間敷候、然者小生事、福井公方御招ニ預り、彼表ニ罷越、今日京師発程仕候、此段御知仕候、扱賢兄如何御起居被成候哉、御模様承り不申、何かと案勞仕事ニ御座候、於京師福井御家中橋本左内ニ出會、諸事咄合申候、橋本ハ直ニ江都ニ発足、今日東北ニ相分申候、賢兄御事、い才橋本ニ咄合置申候間、御寸暇も御座候へハ江戸ニ御登り、橋本ニ御出會、御咄合有之候様呉々奉存候、尤御急キ御出府可然、重々相祈申候、此段得貴意度、余ハ何も略仕候、以上

四月三日 横井平四郎  
桜井純蔵様  
尚々勿々相認、乱筆  
御海容可被下候

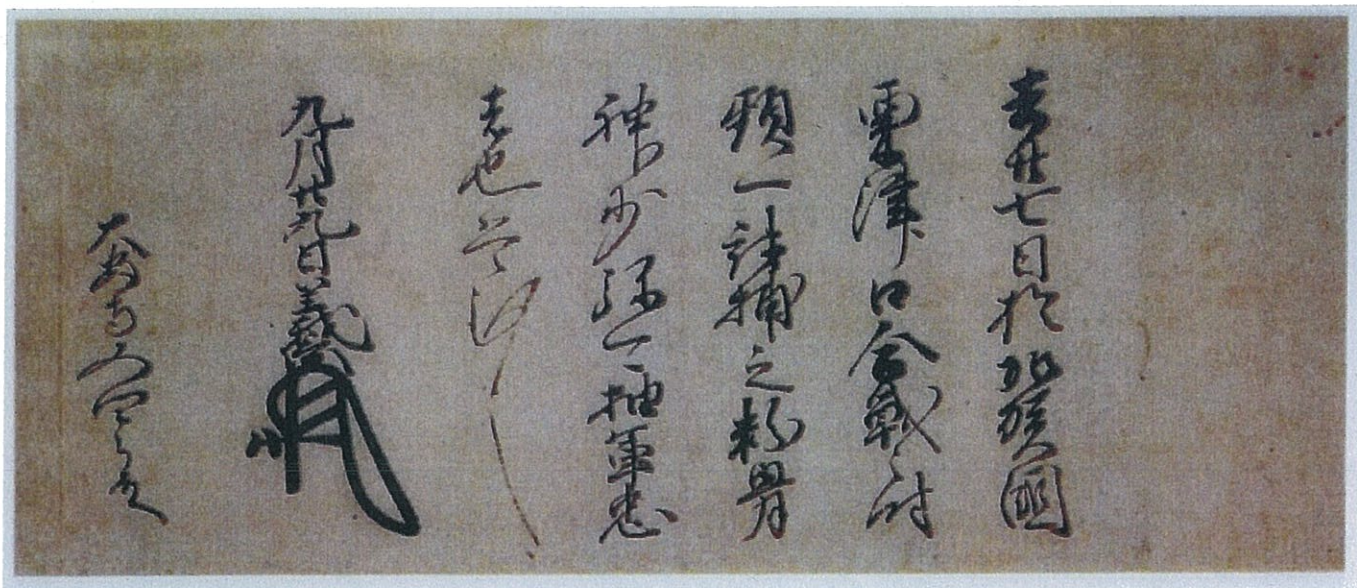
一書拝呈いたします。私は福井公（福井藩主松平慶永）からお招きに預かり、福井へ向かうため今日京都を出立いたしました。京都では福井藩家中の橋本左内に出会い、諸事話し合いました。橋本はそのまま江戸に向け出立し、その後、私（小楠）と橋本左内とは別れました。

貴方のことは詳しく橋本に話しておきましたので、ぜひとも江戸に行つて橋本と会つて、いろいろと話し合ってください。

四月三日 横井平四郎  
桜井純蔵様  
追伸、あわただしく書きしたためたので、乱筆をお許しく下さい。

※桜井純蔵：信濃国上田藩士で、小楠の門下生の一人。  
維新後は宮内省に務め、宮内大書記官に至った。

3 朝倉義景感状



〔読み下し文〕

去る廿七日、加賀国

粟津口において合戦の時、

頸一つ討取るの粉骨神妙、

弥よ軍忠を抽んずべきものなり、

恐々謹言

九月廿九日 義景（花押）

大安寺又四郎殿へ

〔現代語訳〕

去る27日、加賀の粟津口で行われた合戦で、

敵の首をひとつ討ち取った粉骨の働きは大変

感心なことである。いよいよ軍功をあげる

忠節に励んでいただきたい。